

H24 年度第 2 回保全事業報告会



<開催日時>

- 平成25年2月26日(火)19:00-20:30 谷津干潟自然観察センター(23名)

<説明内容>

- 保全事業の経緯と取り組み状況
- 実証試験の経過報告と今後の予定
- イベントの開催結果と今後の予定

※資料

[説明用資料.pdf](#)

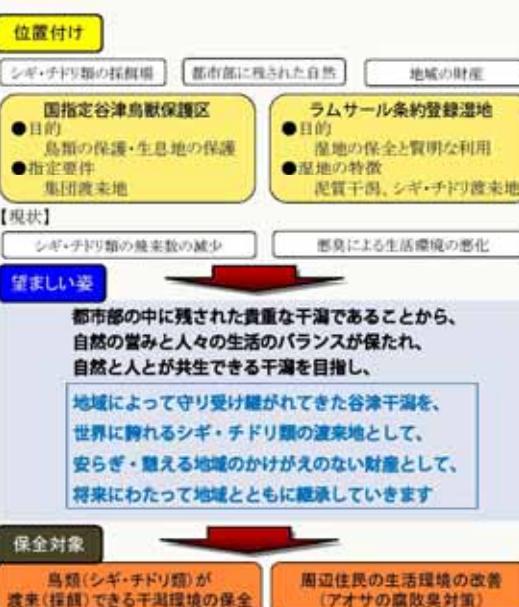
[議事概要.pdf](#)

1. 保全事業の経緯と 取り組み状況



関東地方環境事務所

1. 保全事業の経緯(平成22年度~)



保全事業計画については、保全事業HP(<http://yatsu-hozan.com/>)をご覧下さい。

2

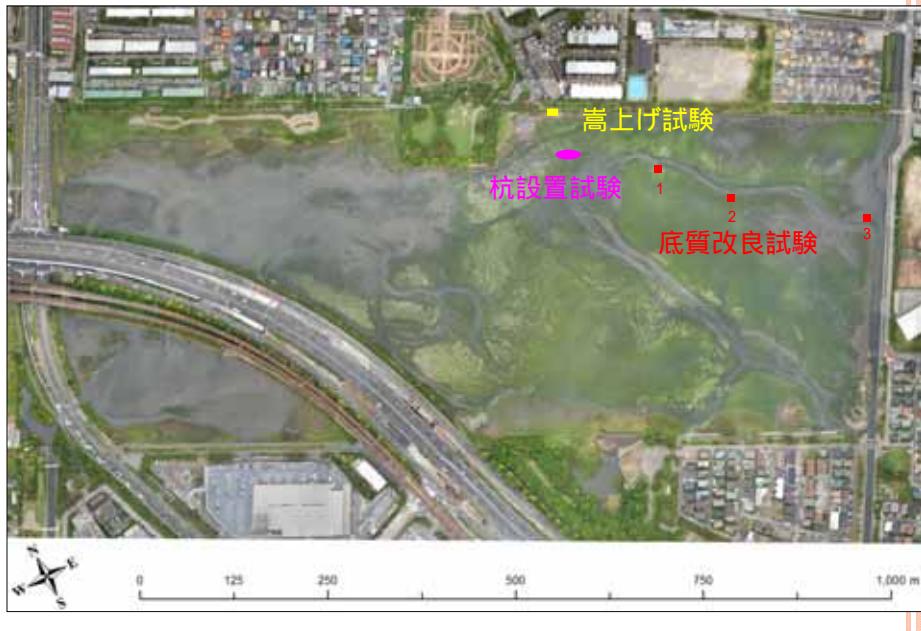


2. 実証試験の経過報告と 今後の予定



関東地方環境事務所

1. 実証試験の実施状況



2. 底質改良試験

目的

底質中の泥分を増加させた場合に、底生生物の生息状況が変化するのかを確認する。

時期

2011年3月施工～モニタリングを継続中

モニタリング結果



泥分は維持

施工直後(2011/03/08)

泥分の多い底質材をかぶせた



ゴカイ類の生息状況は周りと変わらない

現在(2013/01/16)

2. 底質改良試験

得られた知見

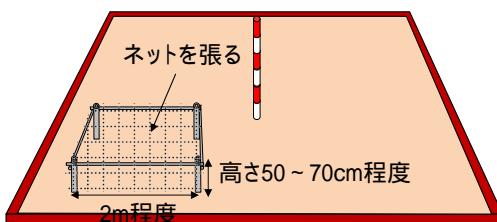
- かぶせた底質材は2年が経過してもおおむね維持された。
- 底質改良区でも周辺と同様な底生生物相が確認された。

課題

アオサの堆積・腐敗により、底質中の硫化物(生物に良くない)が増え、ゴカイ類が生息しにくい環境となっている可能性がある。

今後の方針(平成25年度~)

アオサが堆積しないように、試験区の一部をネットで覆う。



7

3. 嵩上げ試験

目的

嵩上げをした場合に、アオサの堆積・腐敗状況が軽減されるのかを確認する。

時期

2012年3月施工~モニタリングを継続中

モニタリング結果

アオサの堆積・腐敗状況(2012年8月)

地盤高	:	>	>
アオサ堆積厚	:	<	<
アオサ腐敗状況	:	<	<

約1m地盤を嵩上げ(天端T.P. 1.4m)

アオサとの距離を護岸から約5~6M確保

嵩上げ部(砂質)
原地盤(泥質)



満潮位(T.P. 0.8m)

アオサ



8

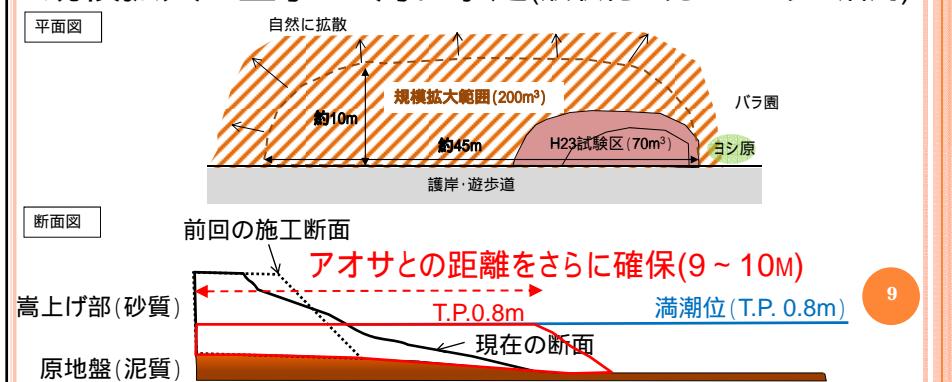
3. 嵩上げ試験

得られた知見(主に夏季)

- ・地盤が0.6Mより高い場所ではアオサ堆積は確認されなかった。
- ・地盤が低い場所ほど、アオサがより堆積しやすく、腐敗しやすい状況が確認された。

今後の方針(3月施工、平成25年度にモニタリング)

規模拡大の工事を3月に予定(液状化で発生した砂を活用)



4. 杣設置試験

目的

杭を設置することで、アオサの吹き寄せ・集積が軽減されるのかを確認する。

時期

2012年9月施工～モニタリングを継続中

モニタリング結果(2012年9月)



4. 杭設置試験

得られた知見

- ・浮遊アオサが、80CM間隔の杭をすり抜け、
50CM間隔の杭に引っかかるることを確認
- ・太い杭(直径約10CM)はサギ類が止まり木として利用
ただし、短期間のモニタリングであることや杭の耐久性に留意が必要
今後の方針(3月施工、平成25年度にモニタリング)
規模拡大の工事を3月に予定



5. 今年度工事

工事は3月を予定、施工方法は前回と同様



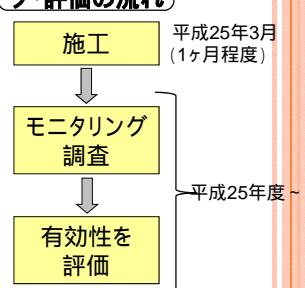
5. 今年度工事

施工内容(予定)

施工平面図



施工・モニタリング・評価の流れ



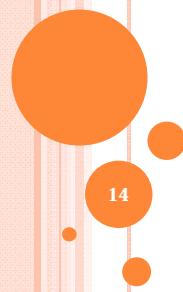
施工方法は検討中であり、多少の変更が生じる可能性があります。

施工時の環境配慮

- ・住民への配慮……………作業内容の周知、施工時間の短縮
- ・利用者、通行者への配慮……………安全確保、交通整理
- ・自然環境(鳥類、濁り等)への配慮…干潟への侵入・搅乱を極力減らす
潮汐を勘案した施工計画の策定

13

3. イベントの開催結果と 今後の予定



関東地方環境事務所

1. イベントの開催結果

開催日時

平成25年1月26日(土)10時～15時

場所

谷津バラ園芝生広場

参加者数

大人100名、子供46名(現地見学会17名)

主催・共催

関東地方環境事務所主催、
習志野市・谷津干潟自然観察センター・千葉県共催



15

1. イベントの開催結果

現地見学会

テント展示

パネル展示



生物展示

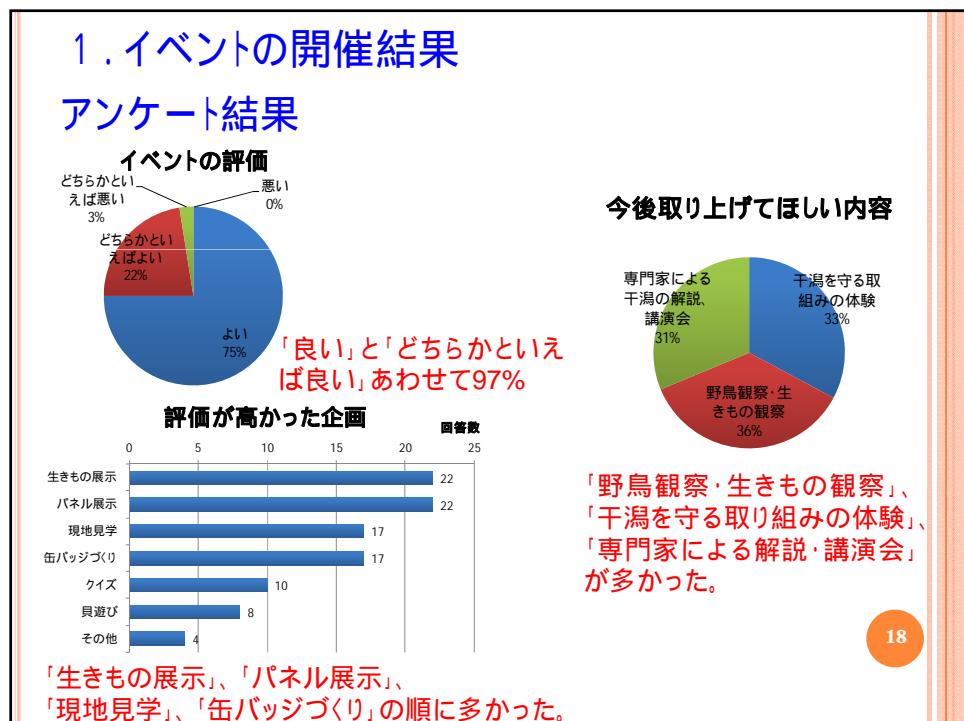
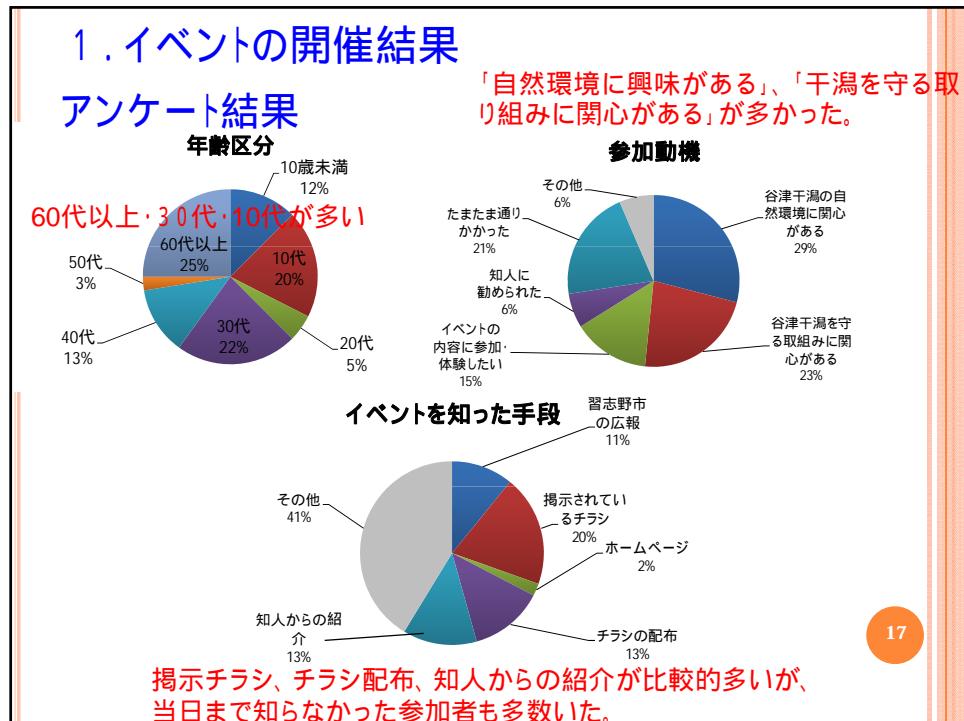


缶バッジづくり、貝遊び



クイズコーナー





2. 平成25年度以降のイベント案

現地見学会

現地見学会、テント展示

講演会

専門家による講演会等

モニタリング体験

アオサ写真撮影、生物調査体験 など

干潟を守る取り組み体験

アオサ回収、外来種(ホンビノスガイ)駆除、

杭の維持管理 など

みなさまのご意見・ご要望をお寄せ下さい。

19

平成 24 年度第 2 回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会
(平成 25 年 2 月 26 日(火)19:00 ~ 20:30 谷津干潟自然観察センター)
議 事 概 要

参加者

- ・ 嵩上げ試験区において鳥類が頻繁に観察されていたが、最近減少した。最近、ネコが嵩上げ区でよく観察されているので、それが要因である可能性がある。

参加者

- ・ アオサに関してはっきりとした成果がないことが気になる。
- ・ 平成 25 年度の予算はどのくらいあるのか。
- ・ 平成 25 年度はモニタリングのみ実施するのか、施工等も実施するのか。

環境省

- ・ 平成 25 年度の予算は平成 24 年度とほぼ同等程度を見込んでいる。
- ・ アオサ堆積対策である嵩上げ区の拡張箇所や杭設置試験についてのモニタリングは実施する予定。
- ・ 新たな対策としては、高瀬川・谷津川内に堆積している貝殻(と生貝)の除去のシミュレーションを想定している。一度に除去した場合、どのような変化があるか分からないので、慎重に進めたい。すでに対策をとった場合の干潟内の流れのシミュレーション計算をして検討しており、今後、具体的に対策を実施するため調査と検討を進める予定である。アオサを干潟外に出すことは硫化物量の増加を防ぐためにも必要であると考えている。
- ・ その他には、イベントの回数を増やし、地元の参加によるモニタリング調査等が行えるように体制を整えたい。

参加者

- ・ イベントへは具体的にどのような人が参加しているのか。
- ・ アンケート内で得られた少数意見はどのようなものがあるのか。
- ・ HP 上に、様々な対策についての記載があるが、あと 2 年で全てできる見込みなのか。できなかった場合、保全事業は継続されるのか。

事務局

- ・ アンケート結果は、回答いただいた 40 名分を集計したものである。
- ・ 自由回答では、保全事業を地域の人が知る機会が多いことは良い、地域と共に実行可能な活動が良いとの意見が得られた。

参加者

- ・ 反対意見はあったのか。

事務局

- ・ 否定的な意見はなかった。

環境省

- ・ 次年度は住民による干潟を守る取り組みの体験を行うなど、協力者を増やし 5 年目(平成 26 年度)が終わった頃には緩やかな連携の基となるようなものができるこをを目指したい。
- ・ 平成 27 年後以降も予算を確保し、モニタリング調査と協働は継続していきたい。
- ・ もし、5 年後、10 年後に環境が悪化した場合は、再度調査と対策案を検討したいと考えている。
- ・ 自然観察センターの活動との重複を避けるという記述が HP にあるが、実質的にそのようなことは可能か。

環境省

- ・ 重複を避けるというのは、自然観察センターと連携し、全く異なった方向性では活動を行わないという意図である。

参加者

- ・ 重複を避け、という言葉は語弊をうみやすいかもしれない。

参加者

- ・ 嵩上げ試験の調査地点～の配置の根拠は何か。
- ・ 昨年度の嵩上げ試験工事による住民、利用者、自然環境への影響はあったのか
- ・ 今回の評価は鳥類で実施されていない。鳥類のモニタリング調査は実施しているのか。またその結果について教えてほしい。

事務局

- ・ 地点～は護岸からの距離は等間隔ではなく、地盤の高さとアオサの堆積状況の異なる3地点を設定した。
- ・ 嵩上げ試験施工時の住民への配慮としては、施工時間の遵守、利用者通行者への配慮の結果、苦情等はなかった。鳥類と濁りについては、鳥類は工事を行っていても比較的近くで観察できたことから、あまり影響はなかったと考えている。鳥類については施工後も調査を実施しており、嵩上げ区で採餌しているのが確認されている。

参加者

- ・ 嵩上げ試験施工前の鳥類調査結果との比較は行っているのか。

事務局

- ・ 嵩上げ試験は、アオサの堆積・腐敗の抑制が主目的である。ただし、鳥類や底生生物への影響がないように調査をしながら進めている。施工前後での鳥類については、整理していないのが現状である。

参加者

- ・ 周期的なものではあるが、鳥類についても比較した方が良いのではないか。

事務局

- ・ 今後の参考とさせて頂きます。

参加者

- ・ 干潟内の水質や湧水についてのモニタリングと、淡水の導入による環境改善について検討する必要があるのではないか。

環境省

- ・ 淡水の導入については、具体的な計画の作成や評価が困難であることから、現在のところ検討項目に入っていない。

事務局

- ・ アオサを減らすための対策として、様々な要因を考慮し、最も効果があるのは干出時間を長くすることだと考え、計画を進めている。淡水導入については、アオサ対策として効果がないことはないが大量の淡水が必要になってくるため、現在優先度が低い。ただし、検討項目から完全に除外されたわけではない。

参加者

- ・ 観察センターには淡水池があり、地下水をくみ上げるポンプも所持しているが、電気代を理由に常時稼働状況はない。環境省が費用を負担し、常に少量の淡水を流すことで、環境は良い方へ変わるのでないか。
- ・ 嵩上げ区周辺は水鳥の休憩場になっている。杭の設置は必要最低限にとどめるべきではないか。アオサが多少溜まる泥場の環境も重要であり、臭いが問題にならなければそれ以上の対策はしなくてもよいと考えている。

参加者

- ・ 保全事業として様々な調査や対策を行っているが、それらのデータは有意義なものなので、提供してほしい。

参加者

- ・ 底質改良区のモニタリング結果について、結果として生物は周りと差がないとい

う結果になっている。これは効果がないということか。

- ・ 今後長く干潟の環境を保全するためには、住民の意識も変えていくべきだ。
- 事務局 ・ 本来であれば生物が増加していることが理想であったが、そのとおりにはなっていない。理由はアオサに起因する土壤中の硫化物であると推察している。根拠としては、アオサが多く堆積すると土壤中の硫化物が増加し、実際に干潟内で土壤中の硫化物が多い場所にはゴカイがほとんど生息していないことが挙げられる。嵩上げ区の硫化物は多い状況にあるため、硫化物が少ない状況になれば、生物は増加すると考えられる。よって、来年度は底質改良区内にアオサが乗らないよう網を設置する実験を計画している。
- ・ 平成 25 年度の開催行事として、報告会、イベント等を開催し、住民の方にも周知とご協力を仰ぐ予定である。

以上